

テーマ	損益会計、一般商品売買				
学籍番号	/	/	/	/	氏名

1. 次の文章の空欄にあてはまる語句を答えなさい。

- ・ 損益計算書には、(①)、経常損益計算及び (②) の区分を設けなければならない。
- ・ 売上高は、(③) の原則に従い、商品等の販売又は役務の給付によって実現したものに限る。
- ・ 棚卸資産の評価方法のうち、取得原価の異なる棚卸資産を区別して記録し、その個々の実際原価によって期末棚卸資産の価額を算定する方法を (④) という。
- ・ 通常の販売目的で保有する棚卸資産について、収益性の低下による簿価切下額は (⑤) 又は製造原価として処理する。ただし、臨時の事象に起因し、かつ、多額であるときには、(⑥) に計上する。

①	営業損益計算	②	純損益計算	③	実現主義
④	個別法	⑤	売上原価	⑥	特別損失

2. 次の資料に基づき、売価還元法による損益計算書を完成させなさい。

【資料】

	原価	売価
期首商品	4,000,000 円	5,000,000 円
当期仕入額	18,000,000 円	
原始値上額		6,100,000 円
値上取消額		3,000,000 円
値下取消額		600,000 円
値下取消額		5,000,000 円
当期売上高		1,000,000 円
実地棚卸高		23,000,000 円
正味売却価額 (期末実地棚卸分)		4,000,000 円
		3,000,000 円

損益計算書

I 売上高		(23,000,000)
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	(4,000,000)	
2. 当期商品仕入高	(18,000,000)	
合計	(22,000,000)	
3. 期末商品棚卸高	(3,600,000)	
差引	(18,400,000)	
4. 棚卸減耗費	(400,000)	
5. 商品評価損	(200,000)	(19,000,000)
売上総利益		(4,000,000)